

資料

「ソヴェト選挙法史における秘密投票」

法学博士 ヤ・イ・タヴィドヴィチ
 法学博士候補 エム・オ・マリールシエフ
 (レニングラード)

—「ソヴェト国家と法」誌

一九五八年第一〇号所載—

Я. И. Давидович и М. О. Малышев:
 Тайное голосование в истории советского
 избирательного права.

中村賢二郎訳

ソヴェト選挙権の歴史、特にソヴェトの選挙のさいの投票制度の歴史にかんするソヴェト法学者の労作を検討すると、これを二つのグループに分類することができる。ソヴェト憲法史にかんする一連の労作のなかでは、投票制度の歴史の問題は、ふれられてもいない。ソヴェト憲法史にかんする無数の資料集の調査・註釈および引用記事では、ソヴェトの選挙のさいの投票制度の歴史について、一般にのべられていない。⁽¹⁾

その他の労作では、ソヴェト選挙のさいの公開投票が、ソヴェト国家の発展の歴史の第一段階(一九一七年—一九三六年)の特色であったことを明らかにしている。このような労作の著者たちの説によると、秘密もしくは非公開投票は、ソ同盟において社会主義が決定的に勝利をしめ、一九三六年のソ同盟憲法が採択された時からやっと実施されるようになったのだという。もちろん、このような労作はもともと興味あるものである。一九四九年のソヴェト国家と法の歴史にかんする教科書は、次のようにのべている。「ロシア・ソヴェト連邦社会主義共和国憲法は、搾取者から選挙権を奪いとり、労働者のために労働者と農民とが完全には平等でない選挙権を認証し、最高および中間の権力諸機関には多段階制選挙を設け、公開投票をふとめた。⁽²⁾」しかし、一九一八年のロシア・ソヴェト連邦社会主義共和国憲法は、このようなことを無条件に認めるような根拠を全くなにも与えてはいない。というのは、この憲法は一般に投票制度についてのべていないからである。

ソヴェト国家法にかんする専門の教科書は、問題をより正確に設定して次のようにのべている。「ソヴェト憲法(一九一八年憲法と一九二四年憲法)は、投票方法を規定しなかつた。このことは、投票を公開でも非公開でも行いえたことを意味している。しかし、ソヴェトの選挙は実際には、原則としていつも公開投票によって行われたし、かつまたソヴェト選挙の訓令 инструкция は、選挙は公開投票で行うと書いていた。⁽³⁾」その

ご出版された法律学校用の教科書の著者たちも、これと同じようなことを言っている。ただ理由づけだけがちがっている。たとえば、一九四八年の大学・高等専門学校用の教科書は、「ソヴェト政権の初期には、選挙人のうちのおびただしい数が、いまだに文盲であり、このことが投票用紙の記入という事実」⁽⁴⁾をとる非公開選挙の実施の問題を紛糾させたという事実」これが公開投票の設定に一定の役割をしたのだと述べている。

法律学校用の教科書は、主として、搾取階級の代表者たちが、たとえ選挙権は奪われていたにせよ、勤労農民のなかの動揺分子や落伍分子のたすけをかりて、反ソ的煽動を行うために秘密選挙という舞台装置を利用できたから公開投票が必要になったのだと説明した。⁽⁵⁾

エス・エル・ローニンはこれと同じ見地に立っている。彼は地域代表制ではなく、生産代表制がソヴェト選挙法の歴史的な特質であると指摘し、次のように書いている。「ソヴェト代議員の選挙のさいの公開投票もまた、このような自然に形成された特質であった。勤労者大衆は、原則として、公開の席上で自己の代表者のうちの最良のものをソヴェトの代議員の候補者に推薦し、公然と挙手によってそのものの選挙について賛意をのべた」。エス・エル・ローニンは他の労作のなかで次のように指摘している。「ソヴェト国家発展の第二段階のもとでは、搾取階級の一掃とともに、選挙権の何らかの制限をごく少数の住民にたいしてさえその維持する一切の必要がなくなった。その

制限とは、ソヴェト国家が第一段階で、反階級の分子の激烈な反抗のためにたよらざるをえなかったものである。世界でもっとも民主主義的な、秘密投票による真に普通・平等・直接の選挙権の諸原理がソ同盟で最終的に確認された」⁽⁶⁾。

デ・チュガーエフは、選挙は公開投票で行うという「慣習」が一九一八年憲法まえに、すでに確立していたと考える。彼は次のように書いている。「投票方法は憲法草案で規定していなかった。投票は公開でも、秘密でも行うことができた。選挙は確立していた慣習にしがたって行われなければならない。実際には、原則として選挙は公開投票で行われた。秘密投票は挿話性をおびていて、個々の郷 *БОЛОТЫ* や郡 *УЕДЫ* でしか採用されていなかった。ややあとになって、選挙にかんする訓命で公開投票が指示され、それは一九三六年のソ同盟憲法採択に

いたるまで実際に行われた」⁽⁷⁾。

一九一八年のロシア・ソヴェト連邦社会主義共和国憲法についていうと、すでにのべられたように、それにはソヴェトの選挙のさいの投票方法にかんする直接の規定がなかった。公開投票は、そのことになって実際に確立したのである。

しかし、すべてこのことは一九一八年のロシア・ソヴェト連邦社会主義共和国憲法の採択後の期間においてのみ正しい。周知のように、第五回全ロシア・ソヴェト大会によるロシア・ソヴェト連邦社会主義共和国憲法の採択（一九一八年七月）は、社会革命党左派の反革命的な暴動と時を同じくする。われわ

これは、こういった情勢が公開投票を確立することを必要にする大きな役割をしたと考える。つまり、公開投票が設けられるようになったのは、多くの場合社会革命党左派の暴動のすぐあとにつづいて起ったテロ行爲、牽制攻撃および公然とした反革命的な暴動に原因があった。外国の軍事干渉と、打倒され敵対した地主・資本家階級やその召使どもによって挑発された国内戦がはじまった。選挙制度のいるるな制限は、このような状況下で考えられるようになり、かつまた全くそれが必要になる。かつての搾取者および不勞分子一般の選挙権剥奪、不平等・間接選挙権、および公開投票はここから生じた。

ヴェー・イ・レーニンは、次のように書いている。「ブルジョアジーから選挙権を取りあげることは、プロレタリアートの独裁の欠くことのできない必然的な特徴ではない。ロシアでも、ボリシエヴィキは、十月革命よりずっとまえにプロレタリアートの独裁のソロトガンをかかげたが、搾取者から選挙権を取りあげるとまえもっていいはなかつた。独裁のこの構成部分は、ある党の『計画によって』あらわれたものではなく、斗争の過程で自然に出てきたものである。」⁽⁹⁾

ソヴェト国家は、第五回ソヴェト大会までに、中央および地方におけるソヴェト政権の確立についてのもっとも偉大なものもろの歴史的事件でみだされた生成と発展の緊張した時期（一九一七年一月——一九一八年七月）をすごした。しかし、遺憾ながらこの時期の選挙制度の歴史の研究には、十分注意され

ていない。ペトログラードの市ソヴェトや地区ソヴェトの選挙を特色付ける色々な記録資料は、実際にはほとんどの企業や赤軍部隊で選挙が秘密投票によって行われたことをわれわれに確信させてくれる。この期間中に、ペトログラードの市ソヴェトおよび地区ソヴェトの選挙は二回行われた。第一回目の選挙運動は一九一七年十一月から一九一八年一月にわたって、すなわちペトログラードでの十月革命の武装蜂起の勝利の直後に行われた。この月のあいだに、選挙は、ほとんどあらゆる工業・運輸企業、およびすでに分裂していた旧陸軍の各部隊で行われた。第二回目の選挙運動は、第五回ソヴェト大会の召集と一九一八年のロシア・ソヴェト連邦社会主義共和国憲法の採択直前の頃に行われた。ソヴェトの選挙は、一九一八年六月に行われ、それはほとんどあらゆる企業・施設、および生れたばかりの労働赤軍部隊にも普及した。

一九一七年十一月から一九一八年一月の選挙実施期間中には、投票を秘密制にするか、あるいは公開制にするかといった具体的な指示は何もなかった。実際には、ほとんどの企業や軍部隊で選挙は、秘密投票で行われた。これは、色々な記録資料によって確認されるし、またこれは偶然なことではないようにわれわれには思われる。

一九一七年二月一六日付の人民委員会議の布告によって、反革命的なエス・エルやメンシエヴィキの支配するペトログラード市会は解散した。市会は反ソヴェトの勢力が結集していた

ので、「ベトログラード市民の代表権を最終的に失った」。ベトログラード市会の新選挙は、一九一七年一月二六日に指定された。ウェ・イ・レーニン署名の布告には、一九一七年一月二六日のベトログラード市会の市会議員選挙にかんする特則がつけかわえられていた。¹¹⁾ 同規則の第一〇条は、秘密投票による選挙を直接規定している。

もしソヴェト政府が、一九一七年の一月という繁忙な時期に、不労分子も参加できたような市会選挙において、秘密投票を設けることが必要だと考えていたとしたら、労働者・兵士ソヴェトについてどういふことがいえるだろうか。ソヴェトの選挙の基本方式が秘密投票であったことをみなければならぬ。実例として、記録文書を若干引用してみよう。

一九一七年二月一日にセメノフ製材工場で行われたベトログラード労兵代議員ソヴェトの代表委員選挙にかんする記録には、次のようにのべられている。「投票箱は、二月一日の午前一〇時より午後七時まで出されていた。

投票時間の終了後、選挙委員会は投票箱の封印の完全なことを確認してから開封し、投票数の計算に取りかかった。

投票総数三九九票のうち、八票が無効とみなされたことが明らかになった。

三三〇票が候補者名簿第一号(ポリシエウイキ)に、六一票が候補者名簿第二号(エス・エル)に投じられた。

かくして、ポリシエウイキの候補者名簿にもとづいて、同志

「ソヴェト選挙法史における秘密投票」

ベガイキン・ミハイル・アンドレーヴィチが労兵代議員ソヴェトの代表者に、また彼の同志サヴェリエフ・ゲラシム・サヴェリエヴィチが候補に選出された。¹²⁾

二月一〇日に行われたニコラエフスキー鉄道操車駅の機関庫労働者のソヴェトの選挙にかんする記録には次のように述べている。「名簿記載の九〇〇名のうち、六五〇名が集会に参加して、そのなかからニコライ・ソコロフとミハイル・アキンフェフを候補者に選ぶことが決定した。秘密選挙のもとで、六二一票で社会民主党・ポリシエウイキの仲間であるニコライ・ソコロフが当選した。¹³⁾

自動車運転士および当技手部門の選挙委員会は、一九一七年二月一日付の文書のなかで票数計算にかんする自分たちの活動を次のように詳細に書いている。「本日午後七時に、選挙委員会委員イオードク、チュパーコフおよびトレチャーコフ、立会人オフマンズスキー、委員長スコフおよび書記トペリマンの出席のもとで、選挙の終了が宣言された。

投票箱が点検され、そのうえで完全に封印されてそのままにおかれ、外から箱を損ずるものはなかった。開票によって、封印された封筒が取出され、それ以外の物は見あたらなかった。封筒は集計すると、六一六票になった。かくして、選挙にはじめて六一六名の組合員が参加した。そのあと開封されて、選挙委員会は選挙の結果の発表にとりかかった。¹⁴⁾

イシヨルスキー工場、株式会社「エリクソン」工場、プチロ

フ造船所、「スコロホード」といったベトログラードでもっとも大規模な企業、およびその他の多くの企業の労働者たちも同様に、ベトログラード・ソヴェトの選挙を秘密投票でおこなった。

一九一七年二月一〇日に行われた市のガス企業の総会の記録は、注目にあたいる。この記録は、秘密投票による選挙を直接指示しているほかに、次のようにのべている。「選挙が異議なく規則どおりに行われるようにという労兵代議員ソヴェト自身の提案によって、このためガス企業の労働者たちによる集会がもたれ、そこで前述の色々な候補者が立てられ、前のことから明らかのように、秘密投票による多数決でザハール・フェドロフ・スコリーコフが選ばれた。」この重要な記録の補足は、ペトログラード・ソヴェトが秘密投票による選挙について絶対に報告されていたことを示す重要な証拠である。¹⁶

ソヴェトの選挙のさい、秘密投票が行われたのは、都市だけではなくであった。一九一八年一月二二日付のベトログラード郡・スレドネログアトスク郷の郷ソヴェト執行委員会の選挙の報告が、記録に保存されている。その記録は次のようにのべている。「会議体からなる農民（恐らく、代議員——筆者）郷ソヴェトは、秘密投票の方法で執行委員会の選挙を行った。」¹⁷

次回のベトログラードおよび地区ソヴェトの選挙は、一九一八年六月一七日から二五日にわたって行われた。ここでもまたもろもろの記録資料は、選挙のさいに秘密投票がもちいられた

ことを実証している。たとえば、プチロフ工場第二区¹⁸のベトログラード・ソヴェト選挙管理委員会の記録第二号は、選挙が投票用紙を秘密に投ずる方法で行われていたことを証明している。票数計算は、一九一八年六月二三日に行われた。

一九一八年六月一八日には、秘密投票により地区ソヴェトの代表者たちをベトログラードの一〇の小規模企業（トライニン、ヴィトおよびブルンス、¹⁹「ザカール」、²⁰「ルスキー・モートル」、²¹「エレクトリリーチエスカヤ・エネルギー」、²²「ブレンネル、ローゼンフェルド、エリクソン（旧ロジヤンコ）などの工場および製作所、自動車工場その他）の労働者たちが選挙した。

一九一八年に選挙を秘密投票で行った企業を多数列挙できるであろう。もちろん、ソヴェトの選挙を公開投票で行った企業、施設および組織もあった。しかし、ペトログラードでは、ソヴェトの選挙が、主として秘密投票によって行われたという事実を特に注意することが重要である。第一回選挙の秘密投票について、われわれは投票方法にかんする布告の資料をもってはいないが、一九一八年六月の選挙期間中に、個々の具体的な指示が出された。たとえば、赤軍部隊のベトログラード・ソヴェトの選挙の組織化にかんする中央選挙委員会の回状は、次のように指示している。

「8、選挙はすべて、地区選挙委員会の代表者の常時列席の

もとで一日のうち午前九時から午後九時まで行う。

9、選挙は均等の原則にもとづいて秘密投票で行う。

10、選挙実施の終了によって、地区選挙委員会の正確に票
 数計算した選挙の記録は、ただちに中央選挙委員会——
 スモートルヌイ第五九号室に送致する」

最後に、ペトログラード・ソヴェト執行委員会は特別筆記電
 話で、あらゆる地区ソヴェト・労働組合および党組織に選挙の
 最終期日が一九一八年六月二十五日であると注意し、さらに筆記
 電話で次のようにいっている。「記入投票がはじまった工場で
 は、——今や選挙前集会の終了とともに各職場や宿舍等々で特
 に激しい煽動活動がはじめられなければならない。」

このようにして、一九一七年から一九一八年にかけての冬と
 一九一八年夏に行われたペトログラード市および地区ソヴェト
 の選挙運動においても、それぞれほとんどの場合に秘密投票が
 採用された。同じことは、これら二回の選挙運動のあいだに行
 われた個々の改選の場合についてもいうことができる。これは
 一九一八年七月までつづいて実行された。

ソヴェト政権の勝利の行進の期間中（一九一七年一〇月——
 一九一八年二月）およびブレスト講和条約調印によってえた一
 時的休戦期間中（一九一八年三月——六月）には、ソヴェトの
 選挙手続に秘密投票を採用することが可能であった。二重権力の
 時期にすでにポリシエウイキ党が、ソヴェトで多数を占める
 ことによって平和的な手段で権力を獲得しようとしてとめたこと
 はよく知られている。しかるに、反革命が七月三日デモに一斉
 射撃をくわえることにより、二重権力は終りを告げ、公然とソ

「ソヴェト選挙法史における秘密投票」

ルジョア独裁が樹立された。さらに、ペトログラードの一〇月
 革命の労働者と兵士の蜂起そのものは、何しろなんらの大流血
 事件もなしに行われたのだ。冬宮襲撃のさい、損害がほとんど
 わずかなものであったことは周知のとおりである。

しかし、被打倒諸階級は、外国資本の直接の援助によってソ
 ヴェト政権にたいする軍事攻撃を組織し、国内戦を拡大させ
 た。これによって、外国干渉軍や国内の反革命にたいする戦い
 がはじまった。

拡がりつつあった国内戦、ひどい燃料・食糧危機、およびこ
 れと関連した工業・運輸および農業における異例的な困難な情
 勢のもとで、選挙法の問題は排他的な鋭敏さをおびていた。丁
 度、一九一八年のロシアのこのような特殊な状況下において、
 搾取者にかんする選挙制度上のあらゆる制限が明白になされる
 のである。すでに第三回全ロシア・ソヴェト大会で採択された
 勤労者および搾取人民の権利宣言のなかでは、「搾取者との決
 戦の時期には、搾取者には権力機関の何一つにも地位をあたえ
 ることはできない」と指示されていた。生れたばかりのソヴェ
 ト国家にとってこの困難な時期に、ところかまわず秘密投票を
 行うことが重大な結果を生むおそれのあることを考えなければ
 ならなかった。もろもろの反革命政党や組織が秘密投票を反ソ
 目的に利用する可能性が除かれていなかった。

選挙法の若干の制限は、プロレタリアート独裁につきものの
 欠くことのできない特徴ではないと、ヴェ・イ・レーニンは指

摘した。彼は、「搾取者の選挙権を剝奪する問題は純ロシア的問題であつて、プロレタリアート独裁一般の問題ではない」と考へた。ヴェ・イ・レーニンは次のように書いている。「選挙権の制限の問題は、ロシア革命の特殊な諸条件、その発展の特殊な道を研究しながら、これを取扱わなければならない」

このような情勢は選挙の方法それ自身にも影響した。ソヴェト政権は公開選挙を実施した。公開投票制は、一九一八年憲法の採択後のはじまつていた国内戦の情勢下において形成され、そのご全ロシア中央執行委員会の訓令で確認された。だが以上引用したベトログラードにかんする色々な資料が証明するように、一九一八年七月前は状況がこれとはちがっていた。われわれは、ソヴェトの選挙の場合の秘密投票が全ロシア的な現象であつたとは確言できない。ソヴェト国家と法の歴史研究者たちが、今後の諸研究によってわれわれの仮定を補足してくれるなら、きわめて面白い。

註(1) 例えば、ゲ・エス・グルウイチ「ソヴェト憲法史」モスクワ、一九二六年。ヴェ・エフ・コトク「ソヴェト国家の社会主義的民主主義」およびエス・エル・ローニン「ソヴェト多民族国家の憲法諸原則の発生と発展」(ソヴェト国家と法の諸問題、一九一七年—一九五七年)ソ同盟科学アカデミー、モスクワ、一九五七年、一一八頁—一七〇頁、一七〇頁—二二二頁)

「ソヴェト政府の布告および決定からなるソヴェト憲法史 (一九一七年—一九三六年)」編集者エス・ストデニキン「ソヴェト立法」発行、モスクワ、一九三六年

「ソヴェト憲法史」資料集、一九一七年—一九五六年」国立法律図書館出版所、モスクワ、一九五七年参照

(2) 「ソヴェト国家と法の歴史」ア・イ・デニソフ編集、国立法律図書館出版所、モスクワ、一九四九年、九五頁

(3) 「ソヴェト国家法」ア・ヤ・ヴィシンスキー共同編集、法律図書館出版所、モスクワ、一九三八年、六二—六四頁

(4) 「ソヴェト国家法」法律図書館出版所、モスクワ、一九四八年、三一—六頁

(5) 「ソヴェト国家法」国立法律図書館出版所、モスクワ、一九五〇年、三七九頁参照

(6) エス・エル・ローニン「最初のソヴェト憲法」(一九一八年のロシア・ソヴェト連邦社会主義共和国憲法制定史によつて)法律図書館出版所、モスクワ、一九四八年、九〇頁

(7) エス・エル・ローニン「スターリン憲法の作成・確認および発展の歴史によつて」ソ同盟科学アカデミー、モスクワ、一九五一年、九三頁

(8) デ・チュガトエフ「ソヴェト国家の最初の憲法 (一九一八年)」モスクワ、一九四九年、一四—六頁

(9) ヴェ・イ・レーニン全集、第二八巻、二五〇頁。(「プロレタリア革命と背教者カウツキー」ソヴェト憲法の章) 邦

訳、大月書店刊、全集、第二八巻、二八九頁。社会書房刊、二巻選集、第一〇分冊、一〇一頁。国民文庫版、七〇頁。

(10) 一月から七月の期間中に、個々の代議員の動員や召還のためにまたその他の理由でソヴェト代議員の改選が時折行われた。

(11) 「ソヴェト政権の布告」第一巻（一九一七年一月二五日——一九一八年三月一六日）、国立政治図書出版所、モスクワ、一九五七年、九三—九九頁参照

(12) 「レニングラード州一月革命・社会主義建設國家アルヒトフ」Государственный архив Октябрьской революции и социалистического строительства Ленинградской области (ГАОР и СС ЛО), 第三三三三ノオント [七八八四] 第七目録、第一八項文書、第四八号 (Ф. 313 с/7884, оп. 7, д. 18, л. 48), Ф = фонд, оп = опись, Д = дело, л = лист,

(13) ГАОР и СС ЛО, Ф. 313 с/7884, оп. 7, д. 21, п. 61.
 (14) ГАОР и СС ЛО, Ф. 313 с/7884, оп. 7, д. 21, п. 59.
 (15) 同、同上, л. 54
 (16) われわれは、選挙が秘密投票で行われた企業や軍部隊の不完全な一覧表を少々長いが引用する必要があると考える。以下これに関するものである。

ア・イ・ヴォロニン更紗染付工場 (ГАОР и СС ЛО, Ф. 7384, оп. 7, д. 17, п. 12)

「ソヴェト選挙法史における秘密投票」

ベトログラード電話網 (p. 37)

製釘・針金工場 (ГАОР и СС ЛО, Ф. 7384, оп. 7, д. 18, п. 21)

ネフスキー木綿紡績工場 (p. 169)

プチロフ工場冶金作業場 (ГАОР и СС ЛО, Ф. 7384, оп. 7, д. 20, п. 12)

アイバス工場 (p. 4)

中央郵便局 (p. 112)

モスクワ電鉄車庫 (p. 46)

ベトログラード金属工場 (p. 20)

織物工場 (p. 104)

国立電信局 (p. 160)

露・米金属会社工場 (p. 105)

光学器械製作所 (p. 60)

シーメンズ・ハリスク工場 (p. 48)

格納庫の技術中隊 (ГАОР и СС ЛО, Ф. 7384, оп. 7, д. 21, п. 152)

ノーマン活字鑄造所 (p. 92)

航空機備品倉庫 (p. 93)

レノーシェフ航空機製作所 (p. 78)

ベトログラード砲兵倉庫 (p. 148)

シャボーンニコフたばこ工場 (p. 166)

第一〇三戦線救急列車 (p. 91—92)

- ベトログラーード自動車部隊 (p. 174—175)
 ベトログラーード軍用印刷所 (p. 101)
 赤十字本部の自動車学校 (p. 172)
 ベトログラーード要塞砲兵隊 (p. 19706) 06 = 060por 第一九七号裏面
 「スコロホード」製作所 (p. 130)
 バランフスキー機械工場 (p. 62)
 イシヨルスキー工場 (p. 153)
 ブチロフ工場压榨作業場 (p. 167)
 シエメノスク連隊第八親衛中隊 (p. 139)
 ビョートル大帝名称市立病院 (p. 162)
 第六バルチック海潜水艦隊 (p. 156)
 ベトログラーード機械工場 (p. 71)
 モスクワ連隊第五親衛中隊 (p. 103)
 ベトログラーード工場砲架・砲彈製作場 (ГАОР и СС ЛО, p. 101, on. 1, d. 40, p. 10)
 (17) ГАОР и СС ЛО, p. 1000, on. 79, d. 20, p. 5.
 (18) 第二区には、鉄道・建設・監視工場・機械試験所その他
 の職場が含まれ、労働者数は一八〇五名であった。
 (19) ГАОР и СС ЛО, p. 101, on. 1, d. 40, p. 61. 参照。
 (20) 同じく p. 32—33. 参照。
 (21) たとえば、市の第一地区の労働者・農民代議員地区ソヴェトの選挙にかんする訓令は、選挙が公開投票または非公開

- 投票のいずれで行われたかを選挙報告書に示すよう要求して
 № (ГАОР и СС ЛО, p. 6276, on. 3, d. 31, p. 206.)
 (22) ГАОР и СС ЛО, p. 47, on. 1, d. 24, p. 134. 参照
 (23) 同じく p. 165
 (24) 一九一八年四月二三日、ブチロフ工場の機関車組立作業
 場の労働者は、秘密投票によって、ベトログラーード地区のソ
 ヴェトの自分たちの代表者を選挙した。(ГАОР и СС ЛО,
 p. 101, on. 1, d. 40, p. 29. 参照)
 (25) ヴェイ・レーニン全集、第二八巻、二三四—二三五
 頁。「プロレタリア革命と背教者カウツキー」搾取者と被
 搾取者との平等はありうるか、の章) 邦訳、大月書店刊、全
 集、第二八巻、二七〇—二七一頁。社会書房刊、二巻選集、
 第一〇分冊、七二—七三頁。国民文庫版、四五—四七頁。
 (26) 一九二五年一〇月一三日付の全ロシア中央執行委員会確
 認の市および村ソヴェトの選挙、ならびにソヴェト大会召集
 にかんする訓令第四一条参照 (ロシア・ソヴェト連邦社会
 主義共和国法令集「一九二五年、第七九号、六〇三項」)

以上